

令和４年度 天王寺学館高等学校 学校評価

1 めざす学校像

主体的に生きるための総合的な力の育成をめざし、狭域通信制・総合学科の通学型通信制高校として独自の学校づくりを推進する。通信部・通学部を設置し、「学びやすく・通いやすい」をモットーに、通学部では習熟度に応じたクラス編成をし、学力や生徒の状況に応じた授業を行い、通信部では生徒の生活リズムや体調に応じた時間で授業を受けることができる工夫をしている。生活リズムの確立を目指し、学びとともに、本校の校訓である「自立・自尊・自助」をもとに卒業後の進路実現を目指している。

① 学習指導と生活指導を両軸として、心豊かで逞しく生きる人間の育成をめざす。

② 授業をはじめ、特別活動や学校行事を通じて、社会で活躍できる人材の育成をめざす。

③ 生徒一人一人の希望進路の実現をめざし、きめ細かな指導を推進する。

④ 落ち着いた雰囲気の中で授業が行われ、規律ある学校生活を実践する。

⑤ 学校説明会、ホームページ等を通じて、情報発信を積極的に行い、中学校や地域社会から本校に対する理解と高い評価を目指す。

2 中期的目標

令和４年度 基本方針

1 新型コロナウイルス感染対策をしっかりと行い、文部科学省・大阪府庁等からの通知を基に、感染対策を講じたうえで可能な教育活動を実施して行く。

2 全ての生徒の進路希望実現に向け、本校の特色を大切にし、特色ある取組みを進める。本年度令和４年度（2022年度）から始まる、新しい教育課程の取り組みや、観点別評価を進め、３年間で学校全体としてどのような生徒を育てるのか共通理解を進め深めていく。

1)進路指導の中期的目標と具体的な取組み

「社会における自己実現」を促す

そのために<1 年次>には「職業の理解と選択」、<2 年次>には「学校(学部)の理解と選択」、<3 年次>には「志望校と受験校の決定」をステップとして取り組む。

<1 年次>行事や日常の学習で職業観や社会人として求められる素養に関心を持たせ、情報提供を行う。進路探求の道筋は全員が共通理解し、行動素地を作る。

1 年次に行う行事：①4 月/マイナビ適学適職診断(アンケートに回答すると適職が複数紹介される) ②1 月/[職業別]進路ガイダンス(午後授業を休講)

<2 年次>将来の目標実現に向け最良のステップを選択させる。専門学校か大学か、大学ならどの学部か、目標実現を前提に選択を促す。

2 年次に行う行事：①6 月/進路ガイダンス(各分野理解) ②7 月/マイナビフェスタ(2 年通学部全員参加) ③1 月/[受験]進路ガイダンス(午後授業を休講)

<3 年次>志望校を目標として掲げつつ学習に励ませ、同時に模試をしっかりと受験させながら、受験校を決定させていく。前期は基礎学力の完成を目指す 夏の面談において受験校を決定、夏からは個別対応で受験型別の指導、通信部は本人の意志確認に時間がかかる可能性あり。

3 年次に行う行事：①6 月/[進路別対策]進路ガイダンス ②9 月/(対象者)指定校推薦説明会 ③1 月/共通テスト自己採点会

2)観点別評価の開始

令和４年度の半期認定科目の前期成績から、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の各観点別に評価を行い、評価を出すようにしている。代表的な例は右のとおり。

年間科目・後期認定科目については、年度末に実施した。

評定	「5」		「4」		「3」				「2」	「1」
知識・技能	A	A	A	A	A	B	A	B	B	C
思考・判断・表現	A	A	A	B	B	B	C	B	C	C
主体的に学習に取り組む態度	A	B	C	B	C	B	C	C	C	C

3 大学入試改革も見据えた授業改善の取組みを進める。

生徒向け授業アンケートと、教員向け学校自己評価アンケートを前期末に実施。生徒向け授業アンケートの 6 項目中の 4 項目と教員向け学校自己評価アンケートの [学習支援]の 4 項目は同じことを(一方は生徒目線、もう一方は教員目線で)問い、これらの回答を比較することで、授業について生徒と教員の反応を比較した。

生徒向け授業アンケート(教員の授業についての 4 項目)

・先生は授業の進度やレベルを生徒に合わせ、分かりやすく授業を進めている。

・先生は毎時間、授業の目標やポイント、取り組み方を説明している。

・先生は板書を工夫し、プリントや機器を使って効果的に教材や課題を示している。

・先生は生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている。

教員向け学校自己評価アンケート[学習支援]4 項目

・進度やレベルを生徒の現状に合わせ、生徒状況を把握しながら授業を進めている

・毎時間、授業の目標や大切なポイント、取り組み方を説明している

・板書を工夫したり、プリントや機器を使って効果的に教材や課題を生徒に示している

・生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている

4 自立した学習者を育成するために重要な、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改善・授業研究）に向け、新しくまた既に導入済みの ICT を活用した授業改善や学習指導の工夫を研究し可能な部分から取組を進める。

ICT を用いた授業について今年度の中期的目標

（１）ICT 機材の整備 （２）教員の ICT を利用した授業への理解を深める （３）生徒の授業等への参加意欲の向上

具体的な取組計画

（１）一人一台端末に向けてタブレット（共有 iPad）を導入し、運用に向けて準備を行う。

（２）グループウェア（Google Workspace の各アプリなど）、ICT（パソコン、タブレット、TV モニター、プロジェクターなど）を活用した教材開発と共有化を進め、授業や校務で活用する。

（３）文化祭や校外学習など行事において、デジタルツールを利用することで教員及び生徒がそれらに触れる機会を多く設ける。また、学校説明会で中学生に向けてもタブレットを用いた体験授業を実施する。

（４）授業形態の工夫や、ICT の効果的な活用で、生徒の授業等への参加意欲を向上させる。

（５）教員同士での授業見学を活性化し、ICT の利用方法を含め、生徒の能力を伸ばすアイデアの共有を促進する。

評価指標

（１）TV モニターの購入や校内 Wi-Fi 導入を行い、校内の教育 ICT 化を推し進める。（２）教員によるモニター、PC 教室、プロジェクターなどの予約件数を増やす。

（３）タブレットやグループウェアを活用した授業に関する教職員研修を年 1 回実施、テーマを定めた公開授業を年 2 回以上行う。

- 5 生徒募集の状況を踏まえ、一層の広報活動を教職員全員が共通理解を持ちながら進め、入学した生徒や保護者の進路・進学実績に対する満足度を高める工夫を進める。
- 学校説明会と編転入生の変遷について
- 本校では中学卒業後本校への入学を目指す中学 3 年生に加えて、常時編転入生を受け入れている(編入生は 4 月と 10 月の年 2 回)。
- 本校主催校内説明会：土曜日を中心に集団説明会を、また予約者に対し個別で説明会を実施
- 外部主催合同説明会：通信制高校向けを中心に、または全日制向けの合同説明会にも参加
- 6 基本的生活習慣を確立させ、規範意識を高め、安心・安全な学校づくりを一層推進する。
- 生徒指導週間について
- 年に 10 回(授業実施期間は毎月)生徒指導週間を設け、校舎入り口のギャラリーで声掛け指導を行っている。頭髮・服装に関して、注意指導(イエローカード)・警告指導(レッドカード)の制度を取り入れ段階を踏んだ指導を実施。
- 遅刻指導
- 時間厳守の意識を高めるために、10 分以上の授業遅刻は欠席扱いにしている。通学部は毎月遅刻回数を集計(通信部は自分の登録した授業時間に登校)。
- 指導主体について
- 生徒指導事象を単発でとらえるのではなく、生徒の個性・背景を踏まえた上で継続的な指導を行うために、昨年度から生徒指導部主体から当該生徒の学年教員で指導を行うよう変更。
- 7 カリキュラム・マネジメント（教育課程を軸とした学校教育の改善・充実）を学校全体で組織的に取り組んでいくことができるよう、全ての教職員が日々の授業等についても、教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組み、各学年の生徒の実情等と指導内容を照らし合わせ、効果的な指導等の在り方や、授業の在り方等について校内研修等を通じて研究を重ねていく。
- 教育会議の開催：新入生・編転入生の背景と課題を教員全員で共有する教育会議を 5 月・7 月・11 月・1 月と年 4 回実施
- 8 自己肯定感が低い生徒にも、小さな成功体験を積み、教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組みを進め、一人一人の生徒が入学時よりも学力を伸ばし、希望する進路実現を目指す。そのためにも、天王寺学館高等学校が大切にしてきた「血の通った教育の場」の実践を進める。
- コース変更の実際
- 本校では通信部⇔通学部、通学部 5 日制⇔3 日制など、生徒の希望でコース/レベルの変更を認めている(年度途中のコース変更で基本的には科目変更はできない)。時期は
- ① 6 月：前期中間試験後、② 9 月：後期開始前、③ 3 月：前期開始前の 3 回。ただし、より負担の少ない方へ変更する(コースダウン・レベルダウン)者が多い。
- 外部模擬試験の校内実施
- 進路希望実現のために、外部模試を校内で実施している。当日欠席者の数を減らすことを目指したい。

3 令和 4 年度の取組内容及び自己評価

中期的目標と今年度の重点目標	取組計画と具体的な内容	評価指標／結果と自己評価
1 新型コロナウイルス感染対策	必要に応じた感染対策を講じる	大阪府教育庁私学課よりの通知に従い感染対策を実施した。
2 進路指導 「社会における自己実現」を促す	・卒業生の進路決定状況において、 進学・就職・進学浪人を省く未定者を減らす	評価指標 ：未定者の割合が卒業生全体における 20%以下 ・2022(令和 4)年度卒業生の進路決定状況 卒業生 227 のうち、 大学 58%、専門学校 16%、短大 3%、就職 2%、浪人 12%、未定 11% ・2021(令和 3)年度卒業生の進路決定状況 卒業生 262 のうち、 大学 41%、専門学校 22%、短大 2%、就職 3%、浪人 10%、未定 22% 自己評価 ：22(令和 4)年度卒業生の進路未定者は 20%を大きく下回った。22(令和 4)年度卒業生の 3 年次学校生活が復活し、将来展望が開け、進路指導もコロナ前に戻ったので、大学進学者大幅増と進路未定者半減につながったと思われる。
3 授業改善に向けて 授業アンケート(生徒向け)、学校自己評価アンケート(教員向け)	・生徒向け授業アンケート、保護者向けアンケートの年 2 回実施、教員向け学校自己評価アンケートの実施	学校自己評価アンケート(教員向け)を 2022.8 月に実施、授業アンケート(生徒向け)を 2022.8 月と 2023.1 月に、保護者向けアンケートを 2022.12 月と 2023.5 月に実施 結果と分析については、 4 を参照
4 ICT 機器運用の活性化	・教員の ICT 授業への理解 ・対生徒、教員間での ICT 運用積極化	評価指標 ：授業以外でも教員・生徒の ICT に触れる機会を増やす ・教員に Google Workspace アプリを積極的に活用させる 2022 年度の教員のアプリ使用率 Google Forms で教員に Google Workspace アプリ使用についてアンケートを実施。回答数 33 ①Gmail(教員間の資料共有・連絡) 100%②Classroom(生徒連絡/クラス一斉配信)92.6% ③Form(アンケート作成・回答/面談・行事申し込み受付)55.6%④Drive(配布物の共有)55.6% ⑤Calender(ICT 備品使用予約)59.3%⑥Meet(オンライン授業)40.7% ⑦Keepmemo(記録メモ)7.4%⑧Document(文書作成・添削)48.1% 「Google Workspace のアプリを積極的に活用していると思うか」に 55.6%が「はい」と回答している ・生徒の ICT に触れる機会を増やす ①美術の授業で生徒に iPad を使って作品を制作させアンケートを実施 授業で iPad を使うと、制作過程や完成度の確認が容易である よく当てはまる 58.7% やや当てはまる 25.4% どちらとも言えない 12.7% <u>84.1%が肯定的回答</u> 授業で iPad を使うより手描きの方が制作に時間をかけられる よく当てはまる 3.2% やや当てはまる 12.7% どちらとも言えない 28.6% <u>15.7%が否定的回答</u> ②文化祭の模擬店のレジ会計を iPad を使用する 自己評価 ：職員朝礼や職員会議での情報共有に Gmail を、生徒連絡・教材配信に Classroom を使っているため教員は積極的にアプリを活用できていると思われる。生徒も iPad の使用に対して抵抗はないように思われる。将来的には生徒全員にタブレットを使わせることを検討している。

5 広報活動により生徒募集を活性化	・編転入生のフォローアップを通じて、生徒募集を活性化させる。転出・退学者、休学者を減らす。	<u>転出・退学者、休学者を減らす</u> 評価指標：生徒総数を単年度 700 人以上、 転退学者総数 40 以下、休学者総数 40 以下を目指す。 2022(令和 4)年度の生徒総数は年度当初 625 から年度末 755 と 130 増、 転出者 11(1.5%)、退学者 20(2.6%)、休学者は 30(4%) 2021(令和 3)年度：総数 106 増(582→688) 転出者 9(1.3%)退学者 8 (1.2%)、休学者は 38(5.5%) 2020(令和 2)年度：転出者 14 退学者 31 総数 45、休学者は 43 2019(平成 31)年度：転出者 19 退学者 41 総数 60、休学者は 44 自己評価：令和 3 年度の転退学者はコロナ禍で登校頻度が少なく、転退学まで至らなかったため例年よりかなり少なかった可能性があり、その前 2 年間から想定し転退学者総数 40 が妥当ではないかと昨年度の自己評価で述べたが、想定通り令和 4 年度は 40 以下におさまった。生徒総数単年度 700 以上もクリアした。昨年度を除けば数値はコロナ禍以前から順調に伸びていると考えられる。 <u>生徒募集活性化</u> 評価指標：個別相談や説明会で昨年度以上の対応により中学からの直接入学者を増やす <u>2022(令和 4)年度</u>：本校主催説明会は 41 回、資料配布数 300、外部主催合同相談会参加 7 回、 資料配布数は 307、個別相談会での資料配布数は 722、<u>配布総数 1329</u> <u>2021(令和 3)年度</u>：本校主催説明会は 43 回、資料配布数 232、外部主催合同相談会参加 5 回、 資料配布数は 169、個別相談会での資料配布数は 471、<u>配布総数 872</u> 自己評価：通信制が中学生の進路選択として認知度が高まっていることに加え、天王寺学館高校が進学対応の通学型であると認識されるよう取り組んだ結果、年度当初の中学からの直接入学者増につながった。(令和 3 年度当初 1 年生総数 130→令和 4 年度 148)						
6 生徒の個性・背景を踏まえた継続的な生徒指導を行う	・昨年度から生徒指導部主体から当該生徒の学年教員で指導を行い、単発ではなく継続的な指導を目指す	評価指標：生徒指導の注意喚起・警告・特別指導件数年間 20 件以下を目指す 令和 3 年度前期(15 件) 注意喚起:14(頭髪・服装)/警告:0/特別指導:0 令和 3 年度後期(8 件) 注意喚起:7(頭髪・服装)/警告:1(頭髪)/特別指導:0 令和 4 年度前期(11 件) 注意喚起:9(頭髪・服装)/警告:2(頭髪)/特別指導:0 令和 4 年度後期(20 件) 注意喚起:12(頭髪・服装)/警告:1(頭髪)/説諭:1/特別指導:7 自己評価：令和 3 年度は学年教員による生徒指導が後期から軌道に乗り指導の効果が出たが、令和 4 年度は後期に指導件数は増え、校長訓戒・有期謹慎以上の特別指導が 7 件も生じた。特別指導の対象生徒は年度途中に転入してきた生徒が多い。転入生の増加により生徒指導上の課題を抱えた生徒も一定数増加したと思われる。この生徒層は学年主体より生徒指導部主体の指導が効果的であるかもしれない。本校が対象としてきた、登校しづらくても進学を目指して真面目に学習しようとする生徒を守るためにも、根気よく生徒指導をしていく必要がある。						
7 生徒の実情等に合わせた効果的な指導に向けて	・教育会議(全教員が新・編転入生の背景と課題を共有)の開催	評価指標：教育会議を最低年 4 回実施する 5 月・7 月・11 月・1 月と年 4 回実施 自己評価：年 4 回の実施を継続し、学年からの情報と入試担当からの転入生報告で生徒情報の共有ができていていると思われる。上記 5 で述べたように 2022 年度生徒数が増加しているにもかかわらず転退学者数がコロナ禍以前に比べると減少しているのは、教員間で生徒の課題を徐々に共有できるようになったのではないかな。						
8 生徒一人一人が入学時より学力伸長・希望進路実現	・ガイダンス+担任面談の充実により自己肯定感が低い生徒に小さな成功体験を積ませる。 ①A) 6 月にコース変更した者が 9 月に再度コース変更しないようコース変更を自分の選択科目を見直す機会と捉えさせる B)できればより出席が多いコースへ<u>コースアップ</u>する・上位の習熟度クラスへ<u>レベルアップ</u>する生徒を増やす <u>コース変更の時期と内容</u> 6 月： 授業を受けた結果(中間試験の結果)選択した科目が予想より難しい・易しいのでコース・レベルを見直す 9 月： 前期期末試験の結果、コース・レベルを見直す 3 月： 年度末成績の結果で、コース・レベルを見直し科目変更につなげる	<table><tr><td> 2021(令和 3)年度 ・6 月のコース変更：14 名 Up3 名 (→通学 2、基礎→理 1)21.4% Down11 名(→通信 7、→3 日 3、学→メ 1)78.6% ・9 月のコース変更：39 名 Up6 名 (→通学 2、→5 日 1、メ→通信 3)15.4% Down33 名(→通信 16、→3 日 8、→文 5、→メ 4)84.6% ・6 月・9 月に再度コースを変更 2 名(Down2) </td><td> 2022(令和 4)年度 ・6 月のコース変更：21 名 Up8 名 (→通学 3、レベル up5)38.1% Down11 名(→通信 9)52.4% 進路変更型 2 名(芸→総 2)9.5% ・9 月のコース変更：48 名 Up14 名(→学 2、→5 日 4、レベル up5、メ→通信 3)29.2% Down32 名(→通信 17、→3 日 3、→文 6、→メ 6)66.6% 進路変更型 2 名(特 3 日→総 5 日、総→芸)4.2% ・6 月・9 月再度コース変更 4 名 Up1、Down3 ①芸 3 日→(6 月変更)基 3 日→(9 月変更)基 5 日 ②芸 3 日→(6 月変更)基 3 日→(9 月変更)通信 ③通信→(6 月変更)基 3 日→(9 月変更)通信 ④総合→(6 月変更)特進→(9 月変更)通信 </td></tr><tr><td colspan="2"> 記号の見方： →通学：通信部から通学部へ、 →通信：通学部から通信部へ、 →3 日：5 日制から 3 日制へ、 →文：理系から文系へ、 …→理：他コースから理系へ →メ：他コースからメディアコースへ レベル up：習熟度クラスを上位へ 基：基礎クラス 総：総合クラス 芸：芸術コース 特：特進クラス </td></tr><tr><td colspan="2"> 自己評価：令和 4 年度は令和 3 年度よりコース変更する生徒が増加(6 月 1.5 倍、9 月 1.2 倍)、負担が大きい方へコースアップ・レベルアップする生徒の増加率はコース変更者総数の増加率より高くなった。(コース変更者数の増加率：6 月 1.5 倍、9 月 1.23 倍)。令和 4 年度は Up とも Down とも言えない進路変更型が 6 月 9 月各 2 名いるのが特徴的。6 月 9 月で再度コース変更する生徒も増えたが、これまでと違ってコースアップした生徒も 1 名。ガイダンスや担任面談が機能したと思われる。 </td></tr></table>	2021(令和 3)年度 ・6 月のコース変更：14 名 Up3 名 (→通学 2、基礎→理 1)21.4% Down11 名(→通信 7、→3 日 3、学→メ 1)78.6% ・9 月のコース変更：39 名 Up6 名 (→通学 2、→5 日 1、メ→通信 3)15.4% Down33 名(→通信 16、→3 日 8、→文 5、→メ 4)84.6% ・6 月・9 月に再度コースを変更 2 名(Down2)	2022(令和 4)年度 ・6 月のコース変更：21 名 Up8 名 (→通学 3、レベル up5)38.1% Down11 名(→通信 9)52.4% 進路変更型 2 名(芸→総 2)9.5% ・9 月のコース変更：48 名 Up14 名(→学 2、→5 日 4、レベル up5、メ→通信 3)29.2% Down32 名(→通信 17、→3 日 3、→文 6、→メ 6)66.6% 進路変更型 2 名(特 3 日→総 5 日、総→芸)4.2% ・6 月・9 月再度コース変更 4 名 Up1、Down3 ①芸 3 日→(6 月変更)基 3 日→(9 月変更)基 5 日 ②芸 3 日→(6 月変更)基 3 日→(9 月変更)通信 ③通信→(6 月変更)基 3 日→(9 月変更)通信 ④総合→(6 月変更)特進→(9 月変更)通信	記号の見方： →通学：通信部から通学部へ、 →通信：通学部から通信部へ、 →3 日：5 日制から 3 日制へ、 →文：理系から文系へ、 …→理：他コースから理系へ →メ：他コースからメディアコースへ レベル up：習熟度クラスを上位へ 基：基礎クラス 総：総合クラス 芸：芸術コース 特：特進クラス		自己評価：令和 4 年度は令和 3 年度よりコース変更する生徒が増加(6 月 1.5 倍、9 月 1.2 倍)、負担が大きい方へコースアップ・レベルアップする生徒の増加率はコース変更者総数の増加率より高くなった。(コース変更者数の増加率：6 月 1.5 倍、9 月 1.23 倍)。令和 4 年度は Up とも Down とも言えない進路変更型が 6 月 9 月各 2 名いるのが特徴的。6 月 9 月で再度コース変更する生徒も増えたが、これまでと違ってコースアップした生徒も 1 名。ガイダンスや担任面談が機能したと思われる。	
2021(令和 3)年度 ・6 月のコース変更：14 名 Up3 名 (→通学 2、基礎→理 1)21.4% Down11 名(→通信 7、→3 日 3、学→メ 1)78.6% ・9 月のコース変更：39 名 Up6 名 (→通学 2、→5 日 1、メ→通信 3)15.4% Down33 名(→通信 16、→3 日 8、→文 5、→メ 4)84.6% ・6 月・9 月に再度コースを変更 2 名(Down2)	2022(令和 4)年度 ・6 月のコース変更：21 名 Up8 名 (→通学 3、レベル up5)38.1% Down11 名(→通信 9)52.4% 進路変更型 2 名(芸→総 2)9.5% ・9 月のコース変更：48 名 Up14 名(→学 2、→5 日 4、レベル up5、メ→通信 3)29.2% Down32 名(→通信 17、→3 日 3、→文 6、→メ 6)66.6% 進路変更型 2 名(特 3 日→総 5 日、総→芸)4.2% ・6 月・9 月再度コース変更 4 名 Up1、Down3 ①芸 3 日→(6 月変更)基 3 日→(9 月変更)基 5 日 ②芸 3 日→(6 月変更)基 3 日→(9 月変更)通信 ③通信→(6 月変更)基 3 日→(9 月変更)通信 ④総合→(6 月変更)特進→(9 月変更)通信							
記号の見方： →通学：通信部から通学部へ、 →通信：通学部から通信部へ、 →3 日：5 日制から 3 日制へ、 →文：理系から文系へ、 …→理：他コースから理系へ →メ：他コースからメディアコースへ レベル up：習熟度クラスを上位へ 基：基礎クラス 総：総合クラス 芸：芸術コース 特：特進クラス								
自己評価：令和 4 年度は令和 3 年度よりコース変更する生徒が増加(6 月 1.5 倍、9 月 1.2 倍)、負担が大きい方へコースアップ・レベルアップする生徒の増加率はコース変更者総数の増加率より高くなった。(コース変更者数の増加率：6 月 1.5 倍、9 月 1.23 倍)。令和 4 年度は Up とも Down とも言えない進路変更型が 6 月 9 月各 2 名いるのが特徴的。6 月 9 月で再度コース変更する生徒も増えたが、これまでと違ってコースアップした生徒も 1 名。ガイダンスや担任面談が機能したと思われる。								

	②校内実施の外部模試で、当日欠 席者数減少を目指す。	評価指標 ：希望者対象の模試において、85.0%以上の出席率を目指す。 希望者対象模試(3年7月・10月・11月/2年7月・11月・2月/1年11月・1月)の出席率は 1年令和3年度80.0%、令和4年度92.3%、2年令和3年度79.5%、令和4年度95.2% 3年令和3年度87.3%、令和4年度79.3%と1年2年は評価指標の目標を上回った。 自己評価 ：体調不良やプレッシャーで希望者対象模試でも当日出席できなかったという者が多い中、模試 を校内で実施すること、模試に参加することの意義について、進路指導部主導でいねいに指導してきた成 果と思われる。3年は令和4年度の方が低く、評価指標の目標にも届かなかった。令和4年度の3年生は コロナ禍で高校に入学。習熟度別に編成された3クラス間で進路意識に差が大きく、それが模試への出席率 に反映していると思われる。3年次9月以降は総合型選抜で合格内定者が多く出席率が低くなるので、次 年度から9月の模試は希望者対象に切り替える予定である。
--	-------------------------------	---

4

【自己評価アンケートの結果と自己分析】

自己評価委員会（校長・教頭・教頭・副教頭・事務長）

○生徒向け授業アンケート結果

生徒向け授業アンケート	2022.7月	2023.1月
1 私は授業で集中して先生の話聞き、学習や実習に取り組んでいる	4.34	4.35
2 先生は授業の進度やレベルを生徒に合わせ、分かりやすく授業を進めている	4.35	4.37
3 先生は毎時間、授業の目標やポイント、取り組み方を説明している	4.35	4.37
4 先生は板書を工夫し、プリントや機器を使って効果的に教材や課題を示している	4.34	4.18
5 先生は生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている	4.13	4.2
6 私は授業に興味・関心を持つことが出来たと感じている	4.19	4.3
平均	4.28	4.3

生徒向け授業アンケートは Google Forms を用いて実施。第1回は前期最終授業時(2022.7/11～7/22)に、第2回は後期最終授業時(2023.1/10～1/30 通学部)(1/10～2/6 通信部・メディアコース)に実施。

回答総数：第1回 2091、第2回 2147

以上の質問に5段階で回答させ、「よく当てはまる：5／やや当てはまる：4／どちらとも言えない：3／あまり当てはまらない：2／まったく当てはまらない：1」のように点数化。平均を取ると、左記のような結果となった。

①22年7月結果と23年1月結果との比較(7月は前期の授業を受けて、1月は後期の授業を受けての反応)：

・ほとんどの項目で後期の方が上回っているが、「4 先生は板書を工夫し、プリントや機器を使って効果的に教材や課題を示している。」だけが-0.16 と下回っている。授業内容は前期は導入から初期段階で比較的理解しやすいが、後期になると深化・応用化しているので難しくなっている。1と6は授業に対する生徒自身の姿勢を示すが、「1 私は授業で集中して先生の話聞き、学習や実習に取り組んでいる」の結果は、「6 私は授業に興味・関心を持つことが出来たと感じている」の結果の上昇率と比較すると、7月から1月にかけて+0.01の上昇で、ほとんど変化していない。内容が難しくなってわかりにくくなっていることを示しているのではないか。結果として、授業内容の難化が「効果的に教材や課題を示している」という文言がある項目4に反映されたとされる。

・授業に対する生徒の評価は教員の自己評価に比べて高い。前期後期とも最終授業に出席していた生徒は、考査に向けて真面目に取り組んでいたと考えられる。授業に対する生徒自身の姿勢についての「6 授業への興味・関心」は、2022年7月アンケートでは他の項目に比べて低かったが23年1月アンケートでは他項目の結果とほぼ同じまで上昇した。教員の授業に対する生徒の印象(2～5)の一つである「5 教員は授業改善に生徒の意見や要望を取り入れ生かしている」は22年7月では他項目よりかなり低かったが、23年1月では低いものの他項目と遜色ない程度まで上昇した。3年生の1月の授業参加率が低い中で回答した生徒は授業に前向きに取り組んでいるからと思われるが、教員の授業改善の取り組みも反映していると思われる。

○保護者向けアンケート結果(保護者懇談会アンケート2022.5月実施、保護者学校評価アンケート結果2022.12・1月／2023.4・5月実施)

①保護者懇談会アンケート：5月に実施された保護者懇談会で「保護者懇談会について」アンケートを Google Forms(回答76)とアンケート用紙(回答29)の両方で実施。アンケート回収率はあまり高くなかった。学年集会(教務部・生徒指導部)と進路講演会(1.2年)・進路説明会(3年)の内容について、満足：5／やや満足：4／どちらでもない：3／やや不満：2／不満：1の5段階で回答を数値化し、平均を求めた。教務部の説明について：4.2、生徒指導部の説明について：4.3、講演会・進路説明会の内容について：4.1と比較的高評価を得たが、回答いただいたのは、すぐに帰宅せずアンケートに回答するという学校の取り組みに積極的な保護者であったことが影響していると思われる

②保護者による学校評価アンケート(22年度12・1月／23年度4・5月保護者懇談会に応じて実施)

質問項目	22年度12・1月	23年度4・5月	差
1. 天王寺学館高等学校の教育活動は子どもの現状にあった対応ができている	4.33	4.52	0.19
2. 天王寺学館高等学校の方針や教育活動に保護者として賛同している	4.43	4.54	0.11
3. 天王寺学館高等学校に子どもを入学させて良かったと思う	4.51	4.64	0.13
4. 子どものニーズに応じて選択授業が開講されていて、他の高校にない特色がある	4.51	4.53	0.02
5. 子どもの悩みや思いを受け止め、適切にアドバイスしてくれる教員がいる	3.94	4.01	0.07
6. 進路説明会の情報や担任の指導助言が進路を考える上で役立っているように思う	3.87	3.94	0.07
7. 進路説明会や保護者懇談会を通じて、様々な進路情報が提供されている	3.95	4.02	0.07
8. 豊かな心や自立心を促す指導が行われているように思う	3.9	4.07	0.17
9. 学校行事や特別活動に、子どもはいきいきと参加している	3.6	3.73	0.13
10. 担任や養護教諭にいろいろな悩みの相談ができているようだ	3.3	3.45	0.15
11. どの教員も同じ姿勢で協力して指導に臨んでいる	3.63	3.85	0.22
12. 天王寺学館高等学校では、いわゆる「いじめ行為」は見られない	4.14	4.2	0.06
13. 非常事態への対応はしっかり行われていて、安心して子どもを送り出すことができる	4.12	4.13	0.01
14. 事務所の職員はいつも丁寧に対応してくれている	4.55	4.63	0.08
15. 同窓会は卒業後も子どもは学校との繋がりが出来るので、作ってほしい組織と思う	3.46	3.65	0.19
16. PTAという組織があれば、保護者や先生との間で悩みなどの相談が出来る	2.92	2.89	-0.03
17. 先生は状況を把握し到達度の低い生徒への個別対応や進学に向けて指導をしている	3.61	3.66	0.05
18. 以前に比べると、子どもの学習意欲が高まったように思える	3.64	3.98	0.34
19. 先生は授業をわかりやすくするために、いろいろ工夫しているようだ	3.61	3.76	0.15
20. 先生は授業について、子どもの意見や要望を取り入れてくれる	3.44	3.59	0.15

23年度結果は22年度結果よりPTAに関する項目以外すべて高くなっている。23年度アンケートの実施時期は1年生入学後すぐで、保護者の学校への期待感が反映されていると思われる。

差が大きい項目は、11 どの教員も同じ姿勢で協力して指導に臨んでいる→0.22up、18 以前に比べると、子どもの学習意欲が高まったように思える→0.34up である。23年度は定年退職等で教員集団の年齢が低くなり、若手教員の方が生徒との垣根が低く、生徒の好感が得やすかったと思われる。保護者への学校評価アンケートは23年度の12・1月に再度実施する予定である。

○教員向け学校自己評価アンケート結果

教員向け学校自己評価アンケートは Google Forms により次の 20 項目で 8 月に実施。回答は、よく当てはまる：4／やや当てはまる：3／あまり当てはまらない：2／全く当てはまらない：1 の 4 段階を点数化。結果は下表のとおり。

質問項目/平均	質問項目/平均
1 本校では目指す学校像や基本方針に基づいて校務に取り組んでいる：3.39	11 生徒についての情報を全員で共有し、協力して生徒に指導を行っている：3.23
2 生徒や保護者は、本校の教育活動について理解している：3.13	12 暴力や暴言等いわゆる「いじめ行為」について全員で協力して対応する用意がある：3.23
3 本校には多様な生徒が入学してくるが、個々の生徒に応じて対応している：3.45	13 地震や火災等の非常事態に対して、どのように対応するか全員で共有している：2.16
4 本校では生徒のニーズで選択授業を開講し他の高校にない特色がある：3.55	14 事務所の職員はいつも丁寧に生徒や転学希望者に対応している：3.97
5 生徒の悩みや思いを受け止め、個々の生徒に合ったアドバイスをしている：3.45	15 本校にとって、卒業生と学校の繋がりを保つために同窓会という組織は必要である：2.74
6 生徒が将来の職業や生き方を考えるような機会を設けている：3.03	16 本校にとって、保護者との意思疎通を図る上で、PTA という組織は必要である：2.29
7 生徒や保護者に様々な機会を通して、適切な進路情報を提供している：3.23	17 進度やレベルを生徒の現状に合わせ、生徒状況を把握しながら授業を進めている：3.29
8 生徒が自立について学校生活の中で感じ学ぶ機会を提供している：2.81	18 毎時間、授業の目標や大切なポイント、取り組み方を説明している：3.32
9 学校行事や特別活動に、生徒はいきいきと参加できている：3.16	19 板書を工夫したり、プリントや機器を使って効果的に教材や課題を生徒に示している：3.39
10 生徒は悩みについて、担任や養護教諭に相談できている：3.0	20 生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている：3.1

質問 1 ～ 4 の[教育目標]について、教員は高く評価している。本校が「総合学科」「単位制」「通信制」の制度を生かした、科目や登校日数を生徒自身が選択できる上に、それぞれの教員が多様な授業を担当し習熟度別授業など生徒一人ひとりの状況に合わせたシステムであることを感じているからと思われる。

一方、5～10 の[生徒支援]は[教育目標]ほど高くない。5 の「生徒の悩みや思いを受け止め、個々の生徒に合ったアドバイスをしている」が高く、6 ～ 8 の機会や情報の提供が低いのは、教員自身は組織としてのガイダンスよりも教員個々の取り組みの方が効果的と感じているということであろう。11～16 の[教育活動]では、13 の「非常事態対応の共有」について評価は低い。避難や非常事態対応について教員間の情報共有を深める必要があると思われる。15 の「同窓会が必要」が 2.74 と教員集団は必要と感じていないようだ。PTA については保護者アンケート 16「PTA は必要」の結果が 2.29 と低かったので、保護者・教員とも必要と感じていないようだ。

17～20 の[学習支援]は生徒の授業アンケート 6 項目の 2 ～ 5 と同じ内容であるが、比較すると生徒向けアンケートが 5 段階評価、教員向けアンケートが 4 段階評価であったことも影響し、生徒の授業アンケートの結果の方が教員の授業に関する自己評価よりどの項目も 1 程度高い。最終授業に出席している生徒は前向きなので授業評価も高いようだ。各項目の評価と全項目の評価の平均との差を、生徒向け授業アンケート結果と教員向け学校自己評価アンケート結果でそれぞれ比べたのが下表である。

教員	評価結果	平均との差	生徒	R4・12 月	R5・4 月	2 回の平均	平均との差
17 進度やレベルを生徒の現状に合わせ、生徒状況を把握しながら授業を進めている	3.29	+0.01	2 先生は授業の進度やレベルを生徒に合わせ、分かりやすく授業を進めている	4.35	4.37	4.36	+0.07
18 毎時間、授業の目標や大切なポイント、取り組み方を説明している	3.32	-0.04	3 先生は毎時間、授業の目標やポイント、取り組み方を説明している	4.35	4.37	4.36	+0.07
19 板書を工夫したり、プリントや機器を使って効果的に教材や課題を生徒に示している	3.39	+0.11	4 先生は板書を工夫し、プリントや機器を使って効果的に教材や課題を示している	4.34	4.18	4.26	-0.03
20 生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている	3.10	-0.18	5 先生は生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている	4.13	4.2	4.17	-0.12
評価結果の平均	3.28		評価結果の平均			4.29	

教員アンケートの 17・18、生徒アンケートの 2・3 はいずれも他項目の評価とほぼ変わらない。「板書を工夫、プリントや機器を使って効果的に教材や課題を提示」の項目は、教員自身は高く評価しているが、生徒は他項目とほぼ変わらない評価である。2022(令和 4)年度はまだ全教室にモニターが設置されていなかったため、積極的に活用する教員とそうでない教員とで差があり、全体的に機器利用に関しての評価は低いと思われるが、ICT 機器を活用しなくてもプリント等で工夫の余地はありそうだ。「生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている」の項目は、教員自身も生徒も他項目に比べ平均より低い。「生徒の意見や要望を取り入れ、授業改善に生かしている」項目が高く評価されるようになると、「効果的に教材や課題を提示」の項目の評価も高くなるのではないかと。今後は生徒向けと教員向けのアンケートの評価指標を合わせるため、教員向けアンケートも 5 段階評価に変更する。

5 【学校関係者評価委員会からの意見】

学校関係者評価委員会	2023(令和 5)年 8 月 23 日 午後 2 時～4 時 場所：天王寺学館高等学校 205 教室		
出席者	委員会委員	(1) 地域住民代表(昨年度より継続) 1 名 (2) 地元中学校関係者(昨年度より継続)1 名 (3) 教育に関する有識者(昨年度より継続)1 名 (4) 学識経験者(新規) 1 名	
	学校	(5) 校長 (6・7) 教頭 2 名 (8) 事務長	
意見を頂いた項目	生徒総数の増加について	A さん：学校選びに関して中学生は調べる質が向上している中で、認知されてきているのだと思う。 中学生の選択肢に全日制だけでなく、天王寺学館も入っている。 B さん：口コミで受験生が増えているのは成果である そのブランド力は大切にしたい。 C さん：文化祭だけでなく、登校の様子や地元行事へのボランティア参加を通じて評判がいい	
	天王寺学館高校の位置づけと認知度について	A さん：今は学校に行けていなくても、真面目に勉強して大学に行きたいと思っている生徒の受け皿になっている 学び直し＋進学対応 ブランド力がついているのではないかと 進学実績は公立中堅校クラスに達している 天王寺学館の進学実績は大きなアピールポイント	
	生徒指導の課題	B さん：行きづらさを抱えている生徒の別ルートの学びの場にするには、「やさしさ」と「厳しさ」の両方が必要 「個性をのばす」と「社会性の育成」の間で揺れることが必要 良い意味でその間を揺れている 振り切れるとダメ C さん：生徒が変わるのは家庭の事情もあると思う	
	授業形態の課題	B さん：内向的な生徒が多いと授業秩序の維持には OK だが、アクティブラーニング等で自己表現していくにはマイナスか D さん：大人でも自己開示を恐れる人が増えている グループワークで自己開示を求められると緊張する生徒が多い？ 怖がるのは不思議ではない こわくない形での導入が必要成功体験があるとこわくない 自分を出しても大丈夫と思わせる環境作りをお願いしたい 静かな生徒はポテンシャルが高いと思っている	

昨年度頂いた「今後に生かすべき取り組み」の状況

- ① 欠席連絡の電子化……………令和 5 年 6/9 より実施、10/4 までで 1250 件 (6/9 以降の電話での欠席連絡は 134 件)
- ② 保護者が繋がる場の設定……………保護者の感想にクラスの懇談会が保護者同志の繋がり場になっているとの記述
- ③ 保護者が学校からの連絡を受け取る機会の設定……………Google アカウントを生徒全員に発行 Google Classroom で生徒連絡
学校が Business LINE 登録、生徒と保護者に同時に配信中
- ④ 保護者の授業参観日の設定……………令和 5 年 6/12～16 で保護者向け授業参観 week を実施、 参加申し込み…167 授業参観アンケート回答…48